

令和2年度
第2回 大館市木材利用推進会議

会議録

日時：令和2年11月19日（木）15：30～16：30

会場：大館市役所 1階 第2会議室

1 開会 委員長あいさつ

＜日景委員長（産業部長）＞

本日の会議では、事務局及び部会で検討を加えてきた大館市木材利用促進計画（案）について、大館市の羅針盤になるものと捉えており、各委員の視点からご意見をいただき、本計画の磨き上げをしていきたい。

2 取り組み状況報告

部会開催結果、各課の意見等とりまとめ結果について＜事務局（小棚木）＞
木材利用に関するアンケート調査結果等の情報提供＜事務局（千葉）＞
資料に沿って説明。

3 計画案説明（大館市木材利用促進計画、スケジュール）

計画のポイント説明＜事務局（古川）＞
スケジュールの説明＜事務局（千葉）＞
資料に沿って説明。

4 大館市木材利用促進計画案に関する意見交換

＜虻川総務部長＞

・市が整備する公共施設全てが対象なのか。

⇒「大館市木材利用基本方針」で対象となる公共建築物や面積要件等を定めた木造化推進基準ある。これらに該当するものが対象となる。

・対象となる公共建築物を整備する場合、「推進会議の意見を伺う」とあるが、推進会議の場で木材利用の方向性について意見を聞いても、様々な理由で方向性が変わることもあり得るが、それでも構わないという認識でよいのか。

⇒そのとおり。木材利用の検討をせずに計画を進めることは避けていただきたい。

＜石田市民部長＞

・計画に載っている施設について、所管課における議会への報告や公表のタイミングは調整をとっていただきたい。

・総合計画やその他計画とリンクしなければならないので情報整理が必要。

＜工藤観光交流スポーツ部長＞

・計画案が成案になるのはどのタイミングか。

⇒議会へ意見を伺い、市長決裁が完了したときである。

- ・本計画は市が取り組む内容となっているが、民間への支援策はあるのか。
- ⇒現在、行っている秋田杉集成材補助のほかにも補助事業を実施する予定である。しかし、まずは市の公共建築物で利用していくことが本計画の目的である。

◇出席できなかった委員から頂いた意見を報告<事務局（小棚木）>

<齋藤副委員長（建設部長）より>

- ・大枠の考え方として、広葉樹も含めて利用を考え、それに見合う山づくりをしていくのか、それとも秋田杉に特化した考え方でいくのか。
- ⇒豊富な資源量がある秋田杉をメインとしていく旨を報告。

<本多教育次長より>

- ・木育インストラクターの養成に関しR3計画が0人はなぜか。
- ⇒R3年度も講座開催の予算要求はしており、資料の整合が取れていなかった。
- ・木育インストラクター登録制度（仮）への登録者数60人の考え方はいかに。せっかく取得したのであれば、積極的に全員に登録してもらったら良いのではないか。
- ⇒資格取得した人の中から事業協力して頂ける人の登録制度を予定しており、木育インストラクター計画人数120人のうち、半数は登録していただきたい旨を報告。

○講評

<アドバイザー 秋田県立大学木材高度加工研究所 高田所長>

- ・杉は梁に使うにはたわみが大きく使いにくい、柱で使う分には遜色はない。
- ・木材も適材適所があるため、杉が劣っているとは考えないでいただきたい。
- ・素晴らしい計画案が出来上がっているが、この計画を公表し一般市民が目にするのであれば、図や絵を取り入れることにより分りやすくなる。
- ・市民に分りやすくすることで、数年後の効果が違って来るだろう。
- ・福島県の吉野正芳国会議員が中心となり「森林を活かす都市の木造化推進協議会」で法案を出すためにワーキンググループを作っている。中央の議員にも木造化木質化を進める大きなムーブメントがある。
- ・大館市は、これに先んじて木材利用を進め、議員が出そうとしている法案に近いものが出来ている。自信をもって進めてもらいたい。
- ・秋田のサッカーチームがJ2に昇格し、ホームスタジアムが必要になる。理想は全天候スタジアムだろう。木造は無理でも内装は木材を使う可能性があり、五輪関係で実績のある大館は強い。

～閉会～

第2回 大館市木材利用推進会議(令和2年11月19日)

